

一般の旅客を運送する定期航路では全国初の、推進力等を全て電気で賄う「完全電気推進船」へ更新する事業
カーボンニュートラルの実現に向けて、オール高知で脱炭素へ取り組む普及啓発につながることを期待

事業目的

- 県営渡船は、県道弘岡下種崎線のうち、浦戸湾内で隔てられた高知市長浜と種崎までの約600mをおよそ5分で結んでいる。
- 人、自転車、原動機付自転車、125cc以下の小型自動二輪車が無料で利用可能。
- 現在運航している県営渡船「龍馬」は、建造から30年以上が経過し、老朽化が著しいことから、船の更新を検討。
- 世界的にも大きな課題となっている地球温暖化対策や、高知県脱炭素社会推進アクションプランなどの県施策に鑑み、運航によるCO2排出量の削減や、脱炭素化に向けた県庁の率先垂範取組の一例になることなどを期待し、完全電気推進船にて事業化。
- 長距離運航や運航速度などの電気推進船における不安要素を航路条件によってカバーできる。
- 2025年（令和7年）3月に県に引渡し、4月より習熟訓練を行い、6月30日に就航式を開催、7月1日から運航開始。

事業効果

- 現渡船「龍馬」と比較し、航行時における**CO2排出量の削減**が可能。
- 再生可能エネルギーを使用し、**CO2排出量がゼロ**になる。
- 振動・騒音・排ガス臭**などに対し、**大きな改善が期待**でき、旅客船として**優れた居住性を確保**。
- 先進的な事業を県として推進することで、**脱炭素への取組を強化**し、県だけでは到底為し得ない
カーボンニュートラルの実現に向けて、県民・事業者の皆様を含めた**オール高知での取組に向けた意識改革**が目的。



県道弘岡下種崎線（県営渡船「浦戸～うらど～」）

事業概要

一般の旅客を運送する定期航路では全国初の、推進力等を全て電気で賄う「完全電気推進船」へ更新する事業
カーボンニュートラルの実現に向けて、オール高知で脱炭素へ取り組む普及啓発につながることを期待

新旧船対比

① 諸元

		現渡船「龍馬」
運航条件	就航年月日	1991年6月
	航行区域	平水区域
	運航距離・回数	0.6km 平日・祝日20往復 日曜日19往復
基本設計	総トン数 [トン]	52トン
	船長要件	海技士免許6級以上
	乗組員 [名]	3名
	船型	両頭船
	船質	鋼
	全長、幅、深さ [m]	18.0m、7.0m、2.7m
	旅客人数	110名
	搭載可能車両 [台]	バイク (125cc以下) 自転車
	推進機出力	ディーゼル 540.9kw (734ps)
	燃料	重油
	最大喫水 [m]	1.6m
最大速力 [ノット]	7.00ノット	
航海速力 [ノット]	6.88ノット	



		新造船「浦戸」
運航条件	就航年月日	令和7年7月
	航行区域	平水区域
	運航距離・回数	0.6km 平日・祝日19往復 日曜日18往復
基本設計	総トン数 [トン]	19トン
	船長要件	小型船舶操縦士
	乗組員 [名]	3名
	船型	両頭船
	船質	鋼+アルミ
	全長、幅、深さ [m]	15.0m、6.0m、1.8m
	旅客人数	57名
	搭載可能車両 [台]	バイク (125cc以下) 自転車
	推進機出力	モーター 100kwh×2基
	燃料	リチウムイオン電池 (150kwh×2基)
	最大喫水 [m]	約0.9m
最大速力 [ノット]	約7.00ノット	
航海速力 [ノット]	約6.00ノット	

② 削減量

船種	燃料	CO2排出量 (tCO2/年)
現渡船「龍馬」 (ディーゼル船)	A重油	約190



船種	燃料	CO2排出量 (tCO2/年)
新造船「浦戸」 (完全電気推進船)	電気	0

※再生可能エネルギーを利用した場合

③ 外観

